

収穫に感謝、孫の誕生

藤原正敏さん（片倉町）

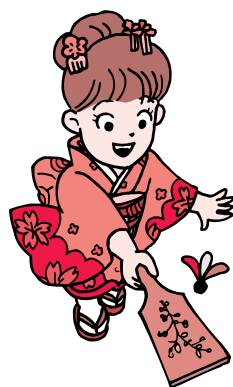
春と秋の衛生団体連合会が呼び掛ける『クリーン作戦』に参加して、年々ボイ捨てが少なくなっているのを痛感した。市民の環境衛生への関心が徐々に高まりつつあるのだろうか。

しかし、自転車放置が相変わらず減っていない。

去年の夏は盛夏だった。トウキビ（ウルキビ・8列）、トマト、ジャガイモ、黒大豆が大収穫で、毎日食卓をにぎわした。一方、イチゴが花も実もならず奇妙な夏だった。シャクナゲ、ドウダンツツジ、ツタ、それにエゾアジサイの花が狂い咲き、ホウズキの実が茎の先まで真っ赤に熟れて垂れ下がった。

地村保著の『絆（きずな）なお強く』を手に入れ、ひしひしと親子の深い愛情に涙して読んだ。そして、北朝鮮に対する不信感がますます募った。

年の暮れも押し寄せまった12月、1年を締めくくるかのように、わが家に3人目の孫が生まれた。早くから孫の命名を頼まれ、毎日辞典ののらめっこだったが、まるで自分の子どもに命名するようで、毎日が楽しかった。美人でなくてもいい、五体そろった孫であってほしい。



私の心の癒し方

児島姫子さん（富士町）

我が家では、健康で楽しく過ごせた2005年、充実した一年でした。すがすがしい2006年の新春、元気で明るい幸福多い年でありますよう、神社に祈願に参りました。振り返ってみれば、例年になく自然災害も多く、大きな事故や事件、そして悲しい罪のない幼児の誘拐殺人と目や耳をふさぎたくなる凶悪な犯罪のニュースのテレビ番組が実に多かつた一年でした。

なぜ罪を犯すの…。なぜ無謀に事故を繰り返すの…。

人々の心がすっかり壊れてきているのでしようか。一人ひとり今一度、欲望、ねたみ、忍耐と自制心を反省し、考え見つめ直し、少しでも心の癒し方を発見してみると、事件や事故が減少するのではないのでしょうか。70歳を迎えるわたしたち夫婦も、食事やお茶の時間に語り合っています。「他人に迷惑かけず、元気で明るく、お互い趣味を通して知り合った仲間と仲良く日常のストレスを解消し、生活をエンジョイしましょう」といっています。

趣味と生きがい

斉藤真智雄さん（美園町）

今年の目標は、詩集を出すことです。

現在入会している東京の会は来年10月で60号という記念の年になるため、毎月書いて提出してきた詩を年代順に並べているところです。

昨年、私用にて全国大会の8月に行けなく仲間と再会することはできませんでしたが、今年はいつもの通り、全国大会に出席し、皆の元気な顔を見てきたと思います。

趣味のある毎日充実しています。『継続は力』だと日々感じています。

たくさんのご投稿、ありがとうございました。

掲載させていただいた『手紙』は順不同です。

